

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：33930

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24520244

研究課題名(和文) 東アジアの笑話と日本文学・日本語との関連に関する研究

研究課題名(英文) A Study of the Relationship between the Funny Stories of East Asia and Japanese Language and Literature

研究代表者

島田 大助 (SHIMADA, Daisuke)

豊橋創造大学・経営学部・教授

研究者番号：50351177

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、中国笑話集『笑林広記』及び『笑林広記』の和刻本『訳解笑林広記』を中心に研究を行った。概要は以下のとおりである。

第一に、中国笑話集『笑林広記』及び『笑林広記』の和刻本『訳解笑林広記』の翻刻データを作成した。第二に和刻本『訳解笑林広記』の出版状況を確認した。第三に和刻本『訳解笑林広記』所収笑話の注釈、邦訳を作成し、その一部を公開した。第四に中国笑話に付される左右の傍訓について検討し、その特徴を明らかにした。第五に、中国笑話の伝来に、笑話集の他に中国の日用類書の影響があることを確認した。第六に、翻刻データのWeb上での公開方法を検討し公開を開始した。

研究成果の概要(英文)： In this paper, I mainly study A Collection of Funny Chinese Stories, or Shorinkoki, and its Japanese edition, Yakukai Shorinkoki.

The outline of the research is: firstly, to create a searchable database of Shorinkoki and Yakukai Shorinkoki. Secondly to view the current status of the publication of Yakukai Shorinkoki. Thirdly, to make notes and modern Japanese translations of the stories chosen from Yakukai Shorinkoki and publish some of them. Fourthly, to examine the Japanese syllabaries (Bokun) attached to the right and the left side of the Chinese words in the text to specify their features. Fifthly, to confirm some influence of Chinese encyclopedias of daily life (Riyong Leishu) on other funny Chinese stories in addition to A Collection of Funny Chinese Stories. Finally, to start to publish a database of the Japanese edition of Shorinkoki, taking the technology of the Web into consideration.

研究分野：日本近世文学

キーワード：日本笑話 中国笑話 朝鮮笑話 漢字 傍訓

1. 研究開始当初の背景

近年の日本近世文学研究の進捗により、日本文学は東アジア、とりわけ中国、朝鮮半島の文学との関係を踏まえて論じなくてはならないことが再認識されつつある。例えば、笑話について言えば、『笑林広記』、それに先行する『笑府』などの中国笑話集の他、『博物誌』など笑話とは一見無関係と思われる書籍にも、日本近世笑話の成立に関係する笑話を見いだせる。

日本近世文学研究にとって重要と思われる中国笑話集への言及が、これまで多く行われていない原因として、『笑府』など一部の作品については、邦訳、テキストの紹介があるものの、その全体においてはテキスト及び注釈が提供されていない点が指摘できる。

そこで、日本近世文学の理解を深めるために、科学研究費補助金の支援を受けて「中国笑話集と日本文学・日本語との関連に関する研究」(基盤研究(C)、課題番号21520215、平成21年~23年度)について研究を行った。支援の対象となった研究では、『笑林広記鈔』『解顔新話』の邦訳、口語訳、注釈を行った。

これまでの研究を通じ、漢字に付される傍訓の重要性を確認した。中国笑話を日本笑話にする場合、これらの傍訓の理解は不可欠である。

和刻本中国笑話集の注釈を行う過程で中国笑話の内容と異なる解釈の笑話があることも確認した。明らかな誤訳を確認できたことは、今後俗文学における近世期の翻訳の実態を明らかにする上で有益な情報を研究者に提供できるものと考えられる。

異体字についても未整理のものが多い。近世期は、現代に通じる文字が確立する時期にあたり、文字表記が固定していく過程で出版物が果たした影響は大きい。中国本土で出版された『笑林広記』には、複数の版があり、版の違いにより文字表記が異なっていることが、研究により明らかになった。近世日本

で出版された数種の和刻本にもそれぞれ異なる文字が使われており、これらを整理することで、国語学の分野の発展にも寄与できると考えた。

これまで『笑林広記』及び『笑林広記』の影響を受けた和刻本を中心に研究を行ってきたが、『笑府』『笑林広記』の間に位置する『絶纒三笑』の重要性を確認した。『絶纒三笑』は、大塚秀高氏による「『絶纒三笑』について」などの研究は存在するものの、『笑府』『笑林広記』との詳細な比較は行われていなかった。近世日本への伝来についても、ほとんど検討されていない状況にあった。今後、日中の笑話についての研究を行う上で、『絶纒三笑』についての調査は不可欠であると考えた。

日本近世笑話の研究を行う上で、朝鮮漢文笑話集を視野に入れなくてはならないとの報告がなされている。朝鮮漢文笑話集は、単に日本笑話との関係だけではなく、日本の説話、昔話、狂言などにも影響を与えた可能性があり、全貌を明らかにすることで、日本文学の理解に新たな視点を加えられることが期待できると考えた。

以上のような背景から、本研究課題に取り組む必要性を感じ研究を行うことにした。

2. 研究の目的

本研究は、以下の点を目的とした。

(1) 日本中国韓国の笑いの性質を明らかにする。

(2) 日本中国韓国の笑話の影響関係を明らかにする。

(3) 中国笑話から、噺本、浮世草子をはじめとする近世小説や、落語・講釈・講談といった舌耕文芸・芸能への影響を明らかにする。

(4) 漢字表記の比較を通して、中国語受容の特徴を明らかにする。

以上の研究を通じて、文学研究はもとより、国語・芸能研究、更には東アジア

の風土・文化・国民性を比較検討する上で重要な情報を研究者に提供することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、中国笑話集・朝鮮漢文笑話集の翻刻・注釈・邦訳を行うための基礎研究と位置づけ、以下の方法で研究を行った。

(1) 『笑林広記』(原本)、『笑林広記』に関連する『訳解笑林広記』等の日本笑話集に用いられている文字の調査を行いデータベース化する。

(2) 『笑林広記』(原本)の整備された読みやすい翻刻テキストを作成する。

(3) 『笑林広記』に関連する日本笑話集の翻刻、注釈、邦訳、口語訳を行う。

(4) 『絶纒三笑』、朝鮮漢文笑話集の所収笑話についての整理を行う。

(5) 中国笑話集・朝鮮漢文笑話集・和刻本中国笑話集・漢文体笑話集の書誌調査及び資料の収集を行う。

(6) 中国笑話・朝鮮漢文笑話と近世文学への影響関係について考察した論文をまとめる。

4. 研究成果

(1) 『笑林広記』(原本)、『笑林広記』に関連する『訳解笑林広記』等の日本笑話集に用いられている文字の調査を行いデータベース化することについては、『笑府』の本文及び画像データ、『訳解笑林広記』の画像データ及び本文データのサンプル版を「『笑林広記』研究公開サイト」(<http://document.sozo.ac.jp/cjdb/>)で公開した。『訳解笑林広記』の本文については、検索システムとともに今後公開していく。本文及び画像データの公開により、中国笑話集の本文を簡単に検索できるようになり、書籍の画像と照合することも簡易に行えるようになる。

(2) 『笑林広記』(原本)の整備された

読みやすい翻刻テキストについては、「『笑林広記』研究公開サイト」で公開する。翻刻テキストには、異体字などの情報もあり、国語学の研究の進展も期待できる。

(3) 『笑林広記』に関連する日本笑話集の翻刻、注釈、邦訳、口語訳については、「『訳解笑林広記』全注釈」として、研究成果を公開中である。現在(一)~(三)までを公開した。これは中国笑話と日本笑話・朝鮮笑話を比較検討するときの基本資料となる。笑話に描かれる笑いは、文学にとどまらず、それぞれの国の文化とも密接に関係している。広く文化研究にも有益である。

(4) 『絶纒三笑』の所収笑話についての整理については、『絶纒三笑』の整理を行い、『笑府』『笑林広記』との比較を行った。比較により、明・清時代の笑話の様相が明らかになり、中国笑話研究の基礎資料となる。

(5) 中国笑話集・朝鮮漢文笑話集・和刻本中国笑話集・漢文体笑話集の書誌調査及び資料の収集を行うことについては、未紹介の資料を含め数点の資料を確認した。『訳解笑林広記』の書誌調査により、長期にわたり、この書籍が複数の書肆から出版されたことを確認した。江戸時代、中国笑話が長期にわたり読者に支持されたことを明らかにした。

(6) 中国笑話・朝鮮漢文笑話と近世文学への影響関係については、多方面から考察を行った。中国笑話集を和刻した笑話集は、複数あるが、それぞれの編著者により採られる笑話が違うことを確認した。一方で、いずれの編著者にも採られない笑話があることも明らかになった。これにより中国の笑いと言語の相違が明らかになった。和刻本中国笑話集の特徴の一つに傍訓がある。左右に振られる傍訓の特徴を明らかにした。これにより中国笑話の日本笑話化の過程を明らかにした。日本笑話と朝鮮笑話の相違については、描かれる動物の違いに注目し検討した。これにより日本と朝鮮の相違が明らかにな

った。中国笑話の日本への伝来は、『笑府』、『笑林広記』などによるものと考えられているが、この他に『増補萬寶全書』など、日用類書によるものが複数あることを発見した。日用類書の日本文学への影響は、他分野の作品にもあると考えられ、今後の研究課題として新たな視点を提供した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

「遠山荷塘施訓『訳解笑林広記』小考」、川上陽介、『國語國文』86巻5号、査読有、2017、pp.466-480

「『訳解笑林広記』全注釈(二)」、川上陽介、『富山県立大学紀要』第27巻、査読無、2017、pp.48-76。

<http://www.pu-toyama.ac.jp/library/bookinfo/PaperList/V27-48-76.pdf>

「漢文テキストの縦書き Web 表示に関する検討」、山口満、三輪多恵子、『豊橋創造大学紀要』第21号、査読有、2017、pp.29-36。

<http://www2.sozo.ac.jp/pdf/kiyou2017/03p029-036MichiruYAMAGUCHI.pdf>

「『訳解笑林広記』全注釈(一)」、川上陽介、『富山県立大学紀要』第26巻、査読無、2016、pp.32-55。

<http://www.pu-toyama.ac.jp/library/bookinfo/PaperList/V26-32-55.pdf>

「『訳解笑林広記』の諸本 見返し・奥付を中心に」、荒尾禎秀、『清泉女子大学紀要』第62号、査読有、2014、pp.1-10。

https://seisen.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id

=701&item_no=1&page_id=25&block_id=29

「『訳準笑話』の書誌と諸本」、荒尾禎秀、『清泉女子大学人文科学研究紀要』第35号、査読有、2014、pp.23-39。

https://seisen.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=607&item_no=1&page_id=25&block_id=29

「浮世草子と京・大坂 西鶴・其磧を中心に」、佐伯孝弘、『日本文学』62巻10号、査読有、2013、pp.2-17。

「『怪談御伽桜』の破戒僧」、佐伯孝弘、『國學院雑誌』114巻11号、査読有、2013、pp.506-524。

「『雑字類編』と「納日」」、荒尾禎秀、『学芸国語国文学』第45号、査読有、2013、pp.21-30。

[学会発表](計2件)

「『西鶴諸国はなし』巻四の七「鯉のちらし紋」試論 付 異体字と国字」、島田大助、東海近世文学会、2015年6月13日、熱田神宮文化殿。

「近世日本における中国笑話の受容について 遠山荷塘施訓『訳解笑林広記』考」、川上陽介、北陸古典研究会2013年度下半期研究発表会、2014年3月29日、金沢大学サテライトプラザ。

[図書](計5件)

『東アジアの古典文学における笑話(仮題)』、島田大助、川上陽介、荒尾禎秀、佐伯孝弘、崔溶澈、琴榮辰、藤井史果(『東アジアの古典文学における笑話』出版委員

会編)、平成 24-28 年度科学研究費補助金 (基盤研究 C)「東アジアと日本文学・日本語との関連に関する研究」公開シンポジウム「東アジアの古典文学における笑話」の研究成果、新葉館出版、2017 年 6 月刊行予定。

『日本近代語研究 第 6 集』(「狂詩の漢字語 生酔狂者輯『狂詩礎』の場合」)、荒尾禎秀(日本近代語研究会編)、ひつじ書房、2017、480。

『日本語史の研究と資料』(「狂詩の漢字語 『狂詩語』を例に」)、荒尾禎秀(中山緑朗編)、明治書院、2015、448。

『日本近世文学と朝鮮』(アジア遊学 163)、琴榮辰(染谷智幸・崔官編)、勉誠出版、2013、228。

『近世はなしの作り方読み方研究 はなしの指南書』、島田大助、新葉館出版、2013、510。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

『笑林広記』研究情報公開サイト

<http://document.sozo.ac.jp/cjdb/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

島田 大助(SHIMADA, Daisuke)
豊橋創造大学・経営学科・教授
研究者番号：5 0 3 5 1 1 7 7

(2) 研究分担者

荒尾 禎秀(ARAO, Yoshihide)
清泉女子大学・人文科学研究所・客員所員
研究者番号：2 0 0 1 4 8 1 3

川上 陽介(KAWAKAMI, Yosuke)
富山県立大学・工学部・准教授
研究者番号：0 0 5 7 4 4 5 1

佐伯 孝弘(SAEKI, Takahiro)
清泉女子大学・文学部・教授
研究者番号：4 0 2 5 5 9 5 6

山口 満(YAMAGUCHI, Michiru)
豊橋創造大学・経営学部・准教授
研究者番号：6 0 4 1 3 7 6 2

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()

(5) 海外研究協力者

琴 榮辰(KEUM, YoungJin)